

行田 歴史系譜 271

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

7

吉田庸徳像（アンブロタイプ）

市指定文化財 行田市郷土博物館所蔵

アンブロタイプとは、安政年間（1854～1860）の初め頃に日本に入ってきた湿板写真の技法の一つです。コロジオン溶液を塗ったガラス板を硝酸銀溶液に浸して、乾かないうちに撮影して現像したもので、ガラス板に写った画像そのものを鑑賞の対象としました。画像自体は左右が反転したネガタイプですが、ガラスの表面に黒い布や紙を密着させたり、黒く塗ったりしてガラスの裏面から見ると、左右が正体となった白黒のポジタイプ像が鑑賞できました。

この写真には、いっどこで誰が撮影したかが書かれた桐板も一緒に伝わりました。それには「慶応四年歳次戊辰八月八日 横浜弁天通五丁目 蓮杖写之 于時二十五歳」と記さ



吉田庸徳像

吉田庸徳は算学や英語を学び、藩校培根堂の教員を勤めました。18歳のときに算術書を執筆したほどの秀才で、後に『洋算早学』や『西洋度量早見』などの数学書も著しました。写真は桐板に書かれたように庸徳が25歳のときの肖像です。撮影場所の横浜は西洋文化が流入する最先端の町でした。大きく変わっていく時代は庸徳の目にどのように映っていたのでしょうか。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

れています。これにより、慶応4年（1868）8月8日に横浜の弁天通5丁目（現・横浜市中区弁天通1丁目）で下岡蓮杖によって撮影されたことが分かります。

下岡蓮杖は横浜で外国人から写真の技法を学び、文久2年（1862）に写真館を開業しました。その後、写真館を前述の弁天通5丁目に移転し、一時期、郷里の伊豆国下田に戻りますが、再度横浜で写真業を再開した、日本の職業写真師の元祖とされる人物です。この写真は蓮杖が撮影した現存する数少ないアンブロタイプであるとともに、保存状態も良く、撮影時期が特定できるなど、日本の写真史の中でも貴重な資料です。

被写体となっている人物は忍藩士吉田庸徳です。庸徳は算学や英語を学び、藩校

こせに ちゃんが 行く!

with フラベス
福祉施設編

グループホーム本丸 (運営:NPO法人WISH)

今月は市役所の近くにあるグループホーム本丸を紹介するね。グループホーム本丸の入居者は現在3人。日中同じ法人が経営するアンテナショップなどで就業に向けた訓練をした後、夜はホームで一緒に過ごしているよ。もともと民家だった建物をリフォームして作られているから、外観も内装も普通の家と同じようなつくりになっていて、入居者は個別の部屋でリラックスして過ごすことができるんだって。休日は、近所の忍城を散歩したり、買い物などに外出したりとみんな思い思いに過ごしているよ。

また、一人一人が安心して生活できるように、常にスタッフがいてお手伝いをしているんだ。入居者もスタッフも穏やかで、家庭的な雰囲気が印象的な施設だったよ。

【住所】本丸1-13 【電話番号】548-3397



今月の表紙

9月11日、消防本部で第44回行田市消防団消防操法大会が開催されました。

消防団員の消火技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に開かれたこの大会には、自動車ポンプの部に14分団、小型ポンプの部に5警備隊が出場。団員らは、迅速で確実な操法を披露し、日ごろの訓練の成果を競い合いました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

